



# 希望郷いわて 流域治水シンポジウム2025

～平成28年台風第10号災害からの岩泉町の復旧・復興とみんなで取り組む流域治水～

## 1.開催趣旨

平成28年台風第10号災害における岩泉町の河川改修事業が令和7年10月に完了したことを踏まえ、流域のあらゆる関係者の協働による流域治水の取組を深化させ、企業や住民の方々に水災害を自分事として捉えもらうため、本県で初となる流域治水をテーマにしたシンポジウムを開催しました。

## 2.開催概要

日 時：令和7年12月14日(日) 13時00分～15時00分  
場 所：岩泉町民会館  
主 催：岩手県・岩泉町流域治水協議会  
共 催：流域治水オフィシャルサポーター (株)吉田測量設計・(株)東開技術  
形 式：集合（後日youtubeアーカイブ配信）  
参加者：約160名



会場の様子

## 3.開催内容

- 動画「いわいづみ9年のキセキ」上映
- 基調講演  
台風・大雨から大切な人の命を守る～正しい気象情報のミカタ～（気象予報士 近藤奈央）
- 取組紹介

- ①岩手県の流域治水の取組（岩手県国土整備部技術参事兼河川課総括課長 佐々木雅章）
- ②つながりで育む地域防災力と防災リーダー（岩泉町防災土連絡協議会 会長 鈴木悠太）
- ③命を守れ！～次世代でつくる小学生への防災教室の実践～（岩手県立岩泉高等学校 2年 佐々木駿斗・竹花悠真）

- パネルディスカッション

激甚化・頻発化する水災害をジブンゴト化しよう～みんなで取り組む流域治水～

【ファシリテーター】IBC岩手放送アナウンサー 神山浩樹

岩手県国土整備部技術参事兼河川課総括課長 佐々木雅章

【パネリスト】 気象予報士 近藤奈央

岩泉町防災土連絡協議会 会長 鈴木悠太

岩手県立岩泉高等学校 2年 佐々木駿斗・竹花悠真

国土交通省国土地理院 参事官（元岩手県国土整備部長）



同時開催：パネル展示



司会 IBC岩手放送アナウンサー 神山浩樹

中平善伸 ※WEB出演

### 動画上映

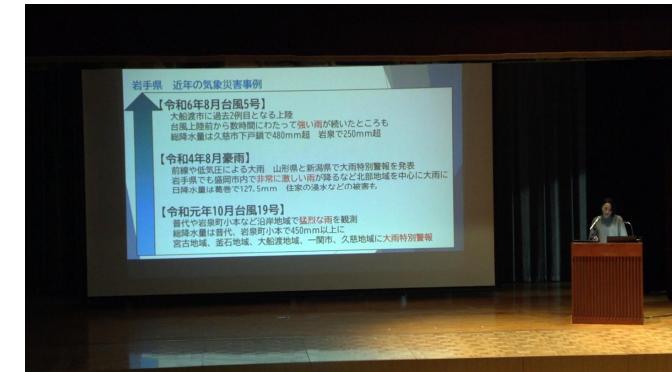
- 県では、平成28年台風第10号災害からの復旧・復興のため、小本川等の河川改修や国道455号の道路嵩上げやルート変更等の道路改良、砂防堰堤の整備を進め、発災から9年余りの歳月を経て、令和7年10月に復旧・復興事業が全て完了した。
- 令和7年6月には、ふれあいらんど岩泉のリニューアルオープンと乙茂地区の河川改修工事の完成を記念して、地元小学生がサクラの苗木を植樹した。この小さな苗木が、やがて大きなサクラとなり、植樹した小学生が大人になる頃、満開の花で未来を彩ってくれることを願う。
- 平成28年台風第10号災害の記憶と教訓を後世に残し、一人でも多くの方が災害を自分事として捉えてほしいという思いを込めて動画を作成した。



岩手県沿岸広域振興局土木部  
岩泉土木センター所長 藤島謙

### 基調講演

- 平成28年台風第10号では、岩泉町の総降水量は248mmであり、わずか2日半で8月平年(165mm)の1.5倍の雨が降った。また、岩手県は、平成28年以降も令和元年、令和4年、令和6年などに大雨が降っており、大雨が頻発している。
- 地球温暖化により、真夏日の年間日数は、1980年代に比べて直近10年間は約2倍になっており、熱中症など、暑さも災害の一つ。また、海面水温が上昇すると、台風が衰弱せずに北上したり、雨雲が発達しやすくなる。今後は、近年の異常な暑さがスタンダードになり、大雨がもっと増えるかもしれない。
- 防災のキホンとして、まずは「ハザードマップ」を確認してほしい。
- 「警戒レベル」を理解しておく必要がある。大切なのは、レベル4(紫)までに全員が安全な場所に避難しておくこと。また、令和8年の出水期から、新しい防災気象情報になり、大雨や河川氾濫等の情報が各レベルに応じて発表されるようになる。
- 気象庁HP「キキクル」ではリアルタイムで地域の災害危険度を知ることができる。また、「早期注意情報（警報級の可能性）」では、5日先まで警報級の可能性を確認することができる。特に台風は比較的リードタイムが長い災害であるため、災害の心構えとして、数日前から気象庁の情報を活用してほしい。
- 「命を守るために情報」は地域で防災力を高めるためにも、家族・友人・職場の同僚などに伝えてほしい。伝えることで避難の後押しになると思う。



気象予報士 近藤奈央

## 取組紹介①

- 地球温暖化が進行し、平均気温が2℃上昇すると、降雨量は約1.1倍、流量は約1.2倍、洪水発生頻度は約2倍になると言われている。気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対して、流域のあらゆる関係者が協働して流域治水を推進する必要がある。
- 小本川は全国で最も早く流域治水プロジェクトを策定された河川の一つ。昨年10月までに県内全ての水系で流域治水プロジェクトを策定し、全県に展開したところ。
- 小本川では河川整備に加えて、輪中堤や宅地嵩上げ、災害危険区域の指定を実施。流域治水プロジェクトの推進により、令和6年台風第5号及び令和5年台風第7号では、平成28年と同規模又は上回る総雨量を記録したが、家屋等の浸水被害を防止。



岩手県県土整備部技術参事兼河川課総括課長 佐々木雅章

## 取組紹介②

- 岩泉町では、防災士が地域において果たす役割は今後ますます重要になると想え、平成30年度から町をあげて防災士の養成に取り組み、平成31年1月に協議会を発足。
- 協議会の設立により、地域防災力の強化や地区自主防災活動の格差解消、防災士同士の情報共有とスキルアップ(横のつながり)などの効果がある。
- 外への情報発信により風化を防止、多職種をつなぐ実践型の研修を実施している。
- 協議会(経験世代防災リーダー)から高校生等(次世代防災リーダー)、小学生等(みらい世代防災リーダー)に横断的な防災教室を行い、それぞれの経験や思いを共有し、身近な世代から次の世代へと横軸のつながりで伝え育み、“人財”育成を実施。



岩泉町防災士連絡協議会会長 鈴木悠太

## 取組紹介③

- 年々防災に対する意識が減っていることから、防災に対する意識を高めるために、KIZUKIプロジェクトの中で高校生が小学生を対象にした防災教室を実施。
- 防災教室の活動をテレビや広報などの報道機関に取り上げてもらうことで、町内だけでなく県内の防災意識の向上が期待できる。
- 小学生のうちから地域の災害リスクを知り、自分事と捉え、災害が起きる前にどのように行動するかを考えることが重要。
- ジオラマ作りで参加型の内容にし、作成したジオラマで災害リスクを可視化することで、より楽しい教室になり、意欲的に取り組んでもらえた。



岩手県立岩泉高等学校2年 佐々木駿斗・竹花悠真

### パネルディスカッション

#### 【気象予報士 近藤奈央】

- 岩手県に台風が過去まだ3回しか上陸していないと考え方もあるが、もう3回も上陸しているとも考えられる。「まさか」が自分にも起こるという心の備えが必要。
- 流域治水はハザードマップに色がついている地域だけの取組ではない。災害が発生した際は、地域の方々の声の掛け合いが重要。ハザードマップの色の有無に関わらず、みんなで流域治水について考えることが大切。
- 岩泉高校の取組は他地域にも広がってほしい。教えるために自分達も勉強するため、岩泉高校の生徒は既に水災害が自分事になっている。また、小学生もより近い世代から教わることで学びの意欲が高まると思うので、相互に良い取組だと思う。



パネルディスカッション

#### 【国土交通省国土地理院参事官(元岩手県県土整備部長) 中平善伸】※WEB出演

- 小本川の流域治水プロジェクトは二級河川で中山間地域における全国のモデルケースとなるように策定しようと呼びかけた。
- 自然災害の伝承する目的は二つある。一つは、「この地域の方々に教訓を伝える（先人が遺したメッセージを時を超えて伝承）」こと。もう一つは、「地域以外の方々に『次はあなたの番ですよ』と伝える（地域の教訓を空間を超えて伝承）」こと。
- 岩手県は国土地理院地図への自然災害伝承碑の登録数が全国で断トツに多いが、その多くが沿岸に集中（津波の伝承碑）しているため、内陸の中山間地域は災害が無い（空白地帯）ように思われる。道の駅いわいづみの台風第10号の痕跡水位や安家川の橋供養塔も登録することで、過去の水害を地域内外に伝えることができるのでは。

#### 【岩泉町防災土連絡協議会会長 鈴木悠太】

- 流域治水協議会はハード対策の話し合いの場と誤解されている印象。実際は、ソフト対策を含めた地域の流域治水の話し合いの場であるため、自分事化のために、地域から名称を募集して、もう少し柔らかいネーミングにしてもよいのでは。
- 台風シーズン前に、大雨時の行動や避難所・要配慮者の確認を地域で自然に会話しているのを見て、過年度の災害を経て、自分事化されていると感じた。マイタイムラインやコミュニティタイムラインの作成は住民が取り組める流域治水の一つ。
- 世代が近い方が教わる側の目の色が違う。災害の教訓を若い世代でバトンをつなぐことに意味があるので大切にしていきたいし、高校生のような次世代防災リーダーが担う役割は重要だと感じている。

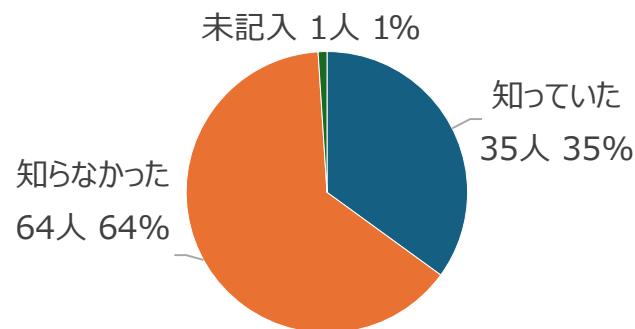
#### 【岩手県立岩泉高等学校 2年 佐々木駿斗・竹花悠真】

- 「気候変動」とかはよくニュースで聞くが、「流域治水」はあまり聞いたことがない。ニュースだけでなく、町の広報やぴーちゃんネット等の別の角度からアプローチしてみると、若い世代にも伝わるのでは。
- 自分たちの取組が色々な人に評価されて素直にうれしい。今後も岩泉町の防災意識の向上に向けて取組を続けていきたい。
- 自分で災害リスクを調べることで、災害を自分事に捉えやすくなる。また、KIZUKIプロジェクトで学んだことを来年度以降も広めて、周りにいい影響を与えていくために、取組発表の場やメディアに取り上げてもらうことを続けていきたい。

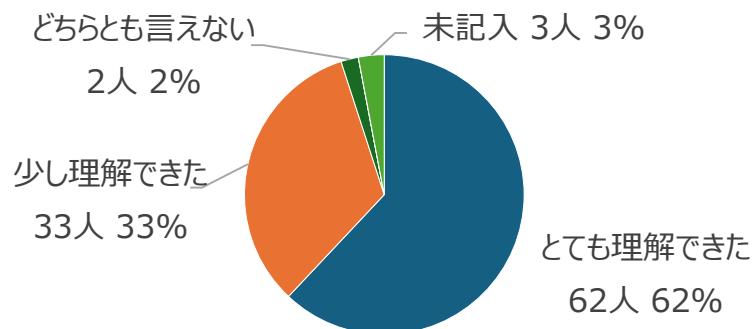
## 参加者アンケート結果

- シンポジウム開催前は、参加者における「流域治水」の認知度は3割程度であったが、シンポジウムの開催により、9割以上の参加者に「流域治水」について理解をしてもらうことができた。

## シンポジウム開催前の流域治水の認知度について

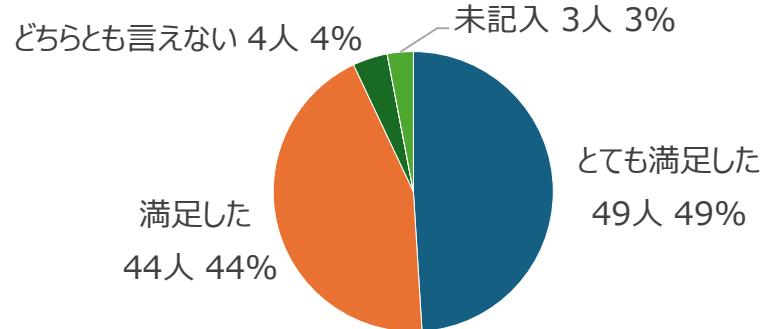


## シンポジウム開催後の流域治水の理解度について



- シンポジウム参加者の9割以上の方々が「とても満足した」又は「満足した」と回答した。

## シンポジウムにおける参加者の満足度



クローズトーク 出演者全員

## YouTube岩手県公式動画チャンネル配信

- 本シンポジウムについては、YouTube岩手県公式動画チャンネルにてアーカイブ配信予定です。また、本シンポジウム内で上映した「いわいづみ9年のキセキ」も配信されていますので、ご覧ください。

近日  
公開